

## 絵本が伝える踊りのイメージ

古市久子

### 目次

- I 動機と目的
- II 方法
- III 絵本は踊りをどのように表現しているか（カテゴリ分析の結果）
  - 1. 絵本に表現された踊りについて
  - 2. 絵本における国別・時代別にみる踊りの捉え方
- IV 絵本の中の踊りのイメージ
  - 1. 普遍的な踊りのもつ力
    - (1) 踊りのもつ力とは何か
    - (2) 自然に踊りに入るとき
    - (3) 踊りとパーティーの関係
  - 2. 揺れるイメージを「踊る」と表現すること
  - 3. 踊りを通しての一生はあるか
  - 4. 小道具の果たす役割
  - 5. 踊りのマイナスイメージが示す意味
- V 絵本が伝える踊りのイメージ

### I 動機と目的

子どもにとって、踊りは実際に動くことや動きを見る文化である。幼児の場合、音楽に合わせて腰を左右に振る動きは、1歳前のつかまり立ちをする頃から見られるので、自発的なものもあるが、表現力をつけさらに発展させていくためには、何らかの情報が必要となってくる。中でも絵本を目にする機会が多い幼児期には、絵本に描かれている内容は、子どもに踊りのイ

メージや印象を与える。それは単に見た・覚えたということだけでなく、そこから映像を動かして楽しみ、想像をはせる源になる。松岡は「子どもたちは、おはなしの中に、まずひとつの経験＝精神の冒険を求める。そのためには、ぜひとも主人公と一体化する必要がある[1]」という。実際、絵本は一体化という仮想体験を通して、少なからず子どもたちの精神世界に影響を与える。そこで語られる意味は子どもの中にあるイメージを形作っていくことになる。

他方、現在、数多くの絵本論が出版されている。例えば、クレヨンハウスが『絵本town』[2]の中でからだの絵本・のりもの絵本・動物絵本などに分けて紹介しているが、踊りを扱ったものはない。河合・松居・柳田の講演や討議集である『絵本の力』には「絵本の中の音と歌」の項があり「絵本の中にいかに「音」が大切な要素として描かれているか」について語られている[3]が、踊りについての関心はない。

堀内は『ぼくの絵本美術館』の中の、「ブレークの歌と踊り」という項で、肉体を主役にした筋肉質の画法について「ブレークの画中人物は劇的所作で私たちの興味をひきつけ、舞踏的リズムで想像力を活性化させる[4]」と絵の舞踏的リズムについて述べているが、絵の躍動感についてのみで、踊るということを論じたも

のではない。

そこで、絵本を使つての本論文であるが、絵本について書くものではない。絵本に描かれた踊りが子どもたちに伝えるイメージがどのようなものであり、そのことで、子どもたちが身体表現を行う際に、どのような力を持つのかを予測するものである。「子どもはよく絵を見ます。特に、まだ文字を読めない幼い読者は、絵が頼りです。子どもは大人に文章を読んでもらい、絵で確認したり、文章ではいわれていないことを絵に発見したりして楽しむのです [5]」と藤本がいうように、幼児の時代は絵でものを考える時代である。子どもが絵本から受ける心の動きを大切にすることがあるし、また、絵本の絵は、それを読むとき、子どもの助けになるだけでなく、その記憶がずっとあとまでその子の映像作りに役立つ [6]」という。舞踊はイメージが映像として記憶されていて再現の形をとることが多い。自由な表現であった場合でも、どこかで見た映像を自分の身体で再現しているのである。日本子どもの本研究会が行った調査では、「幼少期の思い出の絵本の上位に上がった作品は全体的に起伏に富んだストーリー性があり、感動的な盛り上がりがある作品であり、ストーリーの流れの楽しさ、絵のすばらしさ、魅力的な主人公の好奇心と行動力等である [7]」という。この視点から考えるとうれしい気持ちの現れや、クライマックスに登場するお祭りの場面と結びついている踊りは記憶される度合いが大きいと考えてよい。なぜなら、前述の理由により、そこには起伏のあるストーリーや心の躍動感の体験を含んでいるからである。もちろん踊りの体験は身体を動かすことで十分実感できるわけであるが、その踊りが生活の中でどのような位置を占めるのかについて、子どもたちが実際目にする場面以外にイメージを描くことができないのではないかと考える。言い換えると、

そこで目にする絵本は子どもたちに踊りの世界のあれこれを教えてくれることになる。

「音楽と踊りの画家ガンドルフ・コールディネットの絵はもっぱらイギリスの田舎を舞台に、そこにくりひろげられる庶民の生活を描くが、さらに特徴的なことは、登場する人物も動物もすべて躍動する姿か、今にも躍動しはじめる活気みなぎる姿で描かれ [8]」ている。彼はわらべ唄やバラッドやノンセンス詩を素材にした絵本も作っている。センダックはコールディネットの絵本の本質を、一言で〈音楽と踊り〉であるといい、『三人の陽気な狩人』をその代表例にあげて、「それはことばと絵の、自然でなごやかな対位法的演奏の生氣あふれる歌の本である。アクションは意気揚々とした行進曲と滑稽な遁走曲とイギリスのカントリー・ダンスの拍子をきざむ」と報告している [9]。こうした絵本は、絵本を読むことで子どもを快活にするものである。絵本の中には読んだ瞬間に、子どもの躍動感を引き出すものがあるし、踊りそのものを扱ったものもある。しかるに、いわゆる絵本論といわれる書物には踊りに関する書き物がほとんどないのは、絵本を好む人で、踊りに好奇心をもつ絵本作家が少なかったからであろうか。筆者は、絵本好きの踊り好きであるということからも、踊りと絵本について考えておくべき立場にある一人ではないかと考える。

幼児期の絵本から受ける印象の強いことと、踊りに関する絵本論がほとんどない状態であることの2点より、本研究をするにいたった。本研究では踊る視点から見たものはほとんどないということから出発しているので、確たる資料の上に立てられたものではないが、筆者の舞踊実践体験と、幼児との踊り体験、絵本の読書経験の総合的な考えから、次のような研究目標と仮説を立てた。

①絵本が伝えるダンスのイメージの全体像を

- 知ることが大きな目的であるが、その他に
- ②踊りはお祭りをはじめとして、主役ではないが、多くの場面に描かれているのではないか。
  - ③昔ばなしなどにおいては、『こぶとりじい』のように踊りの上手下手がストーリーのキーに使われており、外国においてもダンスパーティーでの上手下手が生活にかかってくるのではないか。また、『ハメルーンの笛吹き』のように笛の音に踊らされる話や、『シンデレラ』の靴のように恐ろしい道具として使われる場合もあるのではないか。
  - ④舞踊技術については伝える手法のむつかしさから、ほとんどないのではないか。

なお、「踊り」を「ダンス」と置き換えて使うこともある。それは、ダンスパーティーという言葉が定着してきているようなものについては「ダンス」を使っている。

## Ⅱ 方法

### 目 的

絵本の中で踊りはどのように描かれているかを見る。

### 研究期間

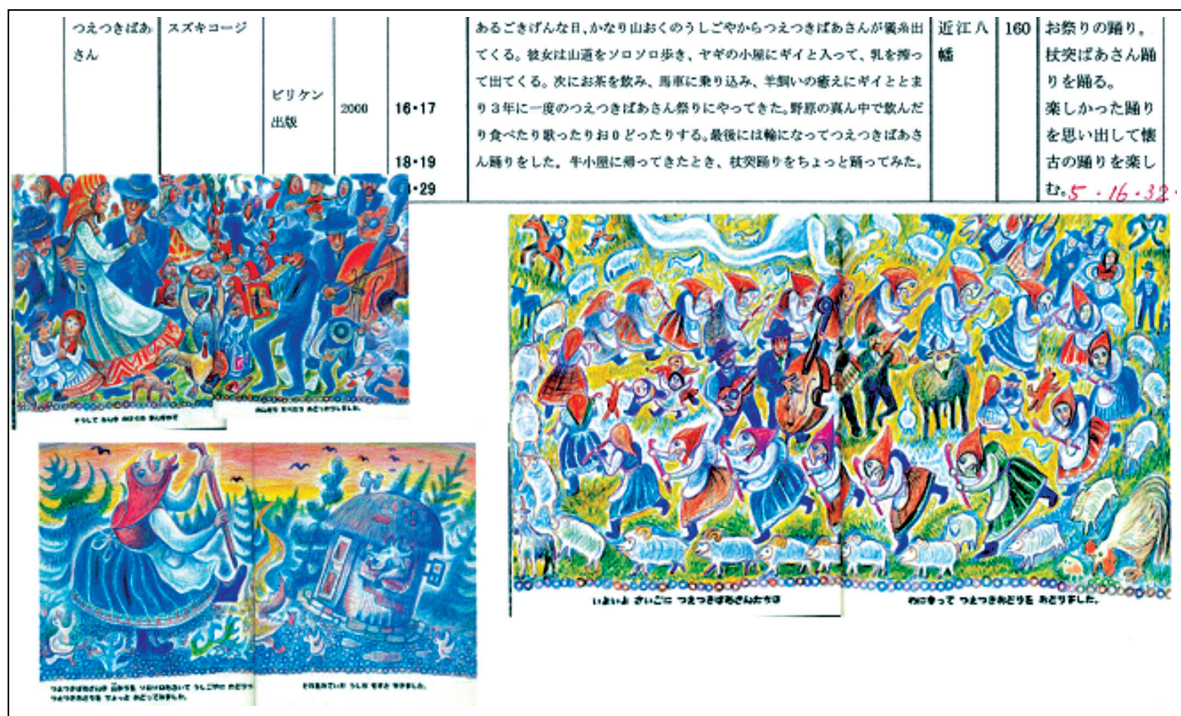
絵本の選出は2008年4月より2009年8月。

### 研究対象

この研究に使用した絵本は合計217冊である。これらは愛知東邦大学附属図書館（絵本約2000冊）と近江八幡市立図書館（絵本は児童図書1万冊の中に含まれているが児童図書と絵本との区分けは不明）の2つの図書館が所蔵する絵本の中で、踊りの描写があるものを選んだ。

### 研究方法

- ①データの収集：絵本一冊につき1枚の絵本リストを製作する。絵図1は『つえつきばあさん』のリストを例としてあげる。絵本リストは本の内容と踊りの意味、踊りの描



絵図1 絵本リスト (160番 つえつきばあさん)

写場面のコピー、出版年や作者等を記録する。

②読み取り指標の決定：踊り場面が絵本のなかで何を伝えようとしているのかを読み取り、カテゴリ分析を行った。読み取りのカテゴリについては2度の読み取りを行い、2度とも一致しなかったものに対して、第3回目の読み取りを実施してカテゴリの分析指標を決めた。(表1の小項目1～60を参照)

③カテゴリ分析：60個の指標をもとに、217枚の絵本リストを筆者がカテゴリ分析した。2回の読み取りのうち、一致しなかったものについては、身体表現の専門家2人に読み取りの協力をお願いし、筆者を含む3人のうち2人が一致した方を採用し、351例を小項目として抽出した。

読み取りの客観性については、古市の「アンケート調査のデータ読み取り作業における信頼度と問題点についての研究 [10]」により、筆者の複数回の読み取りとした。また、身体表現を専門とする者の参加を依頼したのは、古市の「ビデオ観察研究におけるデータ抽出時の問題点について [11]」により、専門家の参加により精度を増すという結果を踏まえたものである。

### Ⅲ 絵本は踊りをどのように表現しているか (カテゴリの分析結果)

#### 1. 絵本に表現された踊りについて

217冊の絵本の中に描かれている踊りの場面は、全部で351例の記述が見られた。結果は表1のように60例の小項目が抽出できた。それらの小項目をまとめたものを大項目とし、Aから

表1 絵本に見られる踊りの表現

大項目	番号	小項目	例数	大項目	番号	小項目	例数
A踊り のもつ 力 59例	1	愛の証・愛を告白	11	E踊り	32	舞台で成功する	9
	2	踊りで人の心を動かす	10	で人生 37例	33	踊りが大好き	9
	3	挨拶代わり・感謝の意味	8		34	上手な踊り手	8
	4	みんなと遊ぶ踊り	5		35	バレリーナ	6
	5	憧れの踊り	5		36	踊り好きの人生談	3
	6	思い出の踊り	5		37	楽しい居所・生活の踊り	2
	7	命が助かる・成功する・恩返し	4	F個の 象徴 29例	38	特性を表す踊り	19
	8	教養として習う	3		39	自分を表す	4
	9	神がかりになる	3		40	踊りを創作	4
	10	踊りを通して学ぶ	2		41	踊りが出来る人	2
	11	踊りで知らせる	2	G踊り の道具 25例	42	衣装と仮面	12
	12	誘惑の踊り	1		43	踊りの小道具	10
Bパー ティー の踊り 56例	13	宴会の踊り	20		44	踊りをする建物	3
	14	ダンスパーティー	10	H踊り のマイ ナスイ	45	踊らされる	7
	15	踊りを見せる	7		46	踊って叱られる	6
	16	収穫の踊り	6		47	ごまかしで踊る	2



	17	結婚式での踊り	5	メージ	48	踊り嫌い	1
	18	酒宴での踊り	4	18例	49	のろいの踊り	1
	19	勝利して踊る	4		50	下手な踊り	1
C 自然に踊る 53例	20	うれしくて踊ってしまう	23	I 必要な踊り 18例	51	民族の踊り	6
	21	音楽が鳴ると踊ってしまう	21		52	雪・春・雨呼びの踊り	4
	22	なりきる	3		53	盆踊り	3
	23	足が動くと踊りだす	3		54	踊る習慣	3
	24	自由を謳歌して踊る	3		55	権威を見せる・策略	2
D イメージ 39例	25	リズムに合わせて踊る	10	J 踊りのやり方 11例	56	練習する様子	7
	26	仲間をあらわす象徴	10		57	踊りの紹介	2
	27	揺れる・飛ぶさまのイメージ	7		58	踊り方	1
	28	楽しいイメージ	5		59	舞踊になって歴史が残る	1
	29	春・夏のイメージ	3	その他6例	60	その他(言葉遊びなど)	6
	30	女の子のイメージ	2		大項目数 小項目数 計 60項目		例数
	31	極楽のイメージ	2				
				11個			351

Jまでの10個の大項目と「その他」にまとめた。それらの割合は図1のようである。「踊りのもつ力」と「パーティーの踊り」「自然に踊る」がほぼ同じ割合で最も多く、17%～15%である。ついで、「イメージ」で踊る様子を描いたもの、「踊りで人生」が11%と続く。全般的に色々な要素が含まれていることがわかる。

最も多い「A踊りのもつ力 59例」は踊りを通して心の動きがあるようなもので、例えば、「愛の証・愛の告白」「踊りを通して学ぶ」こと、踊りのおかげで「命が助かる・成功する・恩返し」「踊りで人の心を動かす」などがここに入り、抽出された全項目351例の17%を占めている。『こぶとりじい』はおじいさんが踊りが上手であったことから命が助かっただけでなく、金銀財宝が手に入った話などもこれに入る（絵図2）。

2番目に多かったのは、「Bパーティーの踊り 56例」である。パーティーの種類は7種類の小項目にまとめられた。何かの記念の宴会の

ときに踊るものが最も多くて、20例あった。それらは、お祝い・お花見・お月見・祭り・出会い・さよならの会が催されたときに行われる。もちろん、普通のダンスパーティーもここに入る。

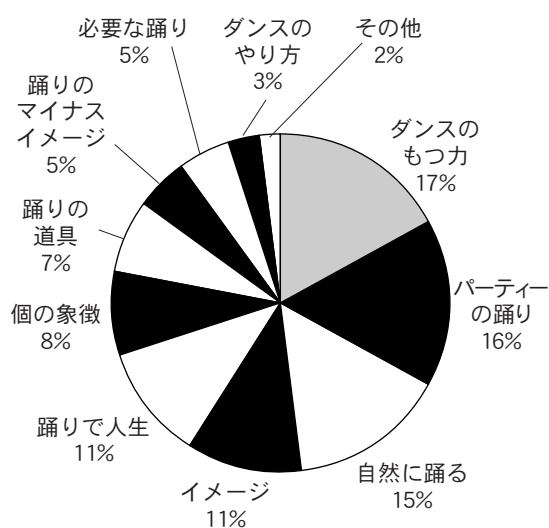


図1 絵本に見るダンスの表現



絵図2 踊りの上手なおじいさんと下手なおじいさん『こぶとりじい』

3 番目に多かったのは、意識していないのに気がついたら踊っている「C 自然に踊る 53 例」である。これは、「うれしくて踊ってしまう」が最も多く、23 例あり、絵図 3 のような場面がそれにあたる。これは、『ともだちくるかな』でオオカミが自分に心があることを知って、うれしさのあまり踊ってしまう場面である。『楽園』では泣き声がやかましいので追い出したもののさびしくなってしまった男が、小鳥が戻ってきてくれたので、思わずうれしくて踊ってしまう。『パパールのしんこんりょう』ではお土産をもらった者がうれしくて踊りながら帰っていく、などがその例である。



絵図3 うれしくて踊ってしまう『ともだちくるかな』



4 番目に多いのは「D イメージ 39 例」で「リズムに合わせて踊る」と「仲間をあらわす象徴」が多い。リズムに合わせるのは、椅子やお皿が音楽に合わせて踊りだし、音楽のリズムの静まりと共に静まっていく『ねむいねむいおはなし』(絵図 4) や、氷の上で踊るねずみの踊りがドンドン速くなっていく『雪の日のパーティー』などがその例である。



絵図4 リズムに合わせる『ねむいねむいおはなし』

またもうひとつの「仲間をあらわす象徴」はストーリーの上では描写がないが、シリーズの本の表紙と裏表紙の全ての両見開きに、輪になって踊る絵で仲良しのイメージを示す『カロリー

ーヌ』などがその例である。

また、揺れているイメージを表すのは、踊るのに合わせて影がゆらゆらと揺れる『影が躍る影ぼっこ』（絵図5）やばけものづくしの野原で赤い火や青い火がべかべかゆれながら踊りだす『茂吉のねこ』などがある。



絵図5 揺れているイメージ『影が躍る影ぼっこ』

5番目に多かったのは「踊りで人生 37例」で、踊り（ダンス）が好きで、あるいは得意で、そのために人生の生き方まで踊り中心に展開していくお話である。ダンスが好きで世界中を修行して周り、幸福にたどり着く『ピーター・ペニーのダンス』（絵図6）や、オペラ座に住む



絵図6 ダンスの好きな人生『ピーター・ペニーのダンス』

ねずみのディディが命をかけてプリマドンナになるはなしの『ディディ』などがある。

6番目は「個の象徴 29例」でもっとも多いのが特性を表すダンス（個の象徴の66%を占める）である。ダンスが大好きな家のお化けが踊る『おばけのコンサート』、大根のくねくねダンスなど畑の野菜が踊りだす『はたけのともだち』などがある。腹の虫が胃袋の中で踊りだす『はらのなかのはらっぱで』（絵図7）は16世紀ごろの医学書『針聞書』に想を得て、当時考えられていた身体の中の虫たちを、ご馳走をたべるときに、はらごなし大会で踊らせている。



絵図7 特性を表す踊り『はらのなかのはらっぱで』

7番目は「踊りの道具 25例」があるが、小道具を用いることがきっかけで踊りに発展したり、踊りが豊かになったりする。ここで一番多いのは仮面をつけ、仮装をすることによる効果である。『みどりのしっぽのねずみ』は仮面にとりつかれたネズミの話で、怖い仮面をつけて踊っている間に性格まで恐ろしく変化してしまう。また、「ダンスの小道具」は、先生に気に入られたくてかっこいいサングラスと紫色のバッグを学校に持って行って注意され、ダンスの小道具に使ってしまう『おしゃまなリリーとおしゃれなバッグ』（絵図8）がある。

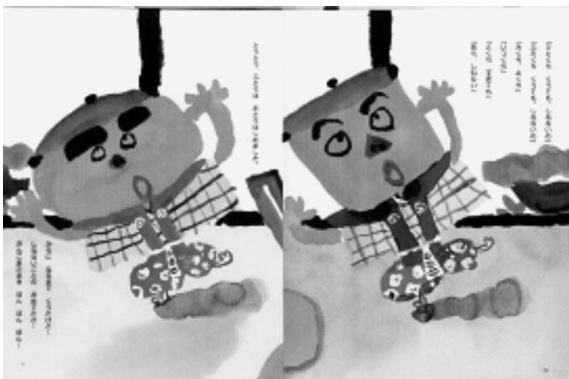
8番目は「踊のマイナスイメージ 18例」でシンデレラの継母がシンデレラの結婚式に招待されて、真っ赤に焼けた靴を履いて一生踊らさ





絵図8 ダンスの小道具『おしゃまなリリーとおしゃれなバッグ』

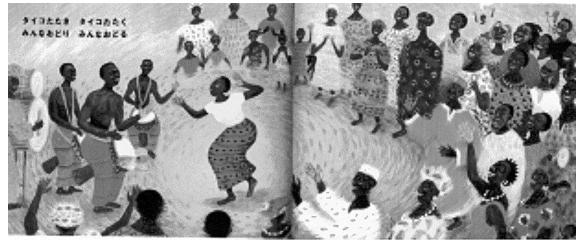
れる『シンデレラ』、太郎冠者と二郎冠者が、和尚さんのもっている甘い蜂蜜を禁止されているにもかかわらず食べてしまい、しらばっくれて「ごまかしの踊り」をする『ぶす』(絵図9)や、教室で踊りだして先生に叱られる『ちびうさがっこうへ』などがある。



絵図9 自嘲的な踊り『ぶす』

「必要な踊り 18例」は、「民族の踊り 6例」が一番多く、バリ島の踊りを紹介している『イルカの風』や「タイコたたき タイコたたく みんなおどり みんなおどる 環になって 和

になって」という文章と共にアフリカの踊りが紹介されている『アフリカの音』(絵図10)がある。『あめをよぶまつり』のように雨乞いの話は昔から聞くが、絵本の中では、雪を呼ぶ『ヨールカの白いお客さん』や春を呼ぶ『アティと森のともだち』などがある。



絵図10 民族の踊り『アフリカの音』

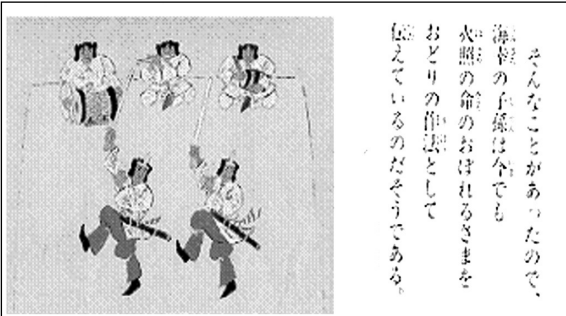
次は「ダンスのやり方 11例」についてで、『ハンスのダンス』(絵図11)ではカエルに特訓をうける様子が描かれている。いよいよコンテストが行われた日に、緊張してしまって踊りが硬くなるが、ハンスにダンスを特訓したかえるが服の中に飛び込み、彼を笑わせて優勝するというおまけまでついている。これも表現の心の持ち方に迫る意味(緊張感をほぐす)を含んでいる。『わたしはバレリーナか』ではくるみ割り人形・眠れる森の美女・白鳥の湖など7種のバレエが紹介され、『うみさちやまさち』(絵図12)は、日照の命のおぼれるさまを踊りの作法として伝えているという話である。



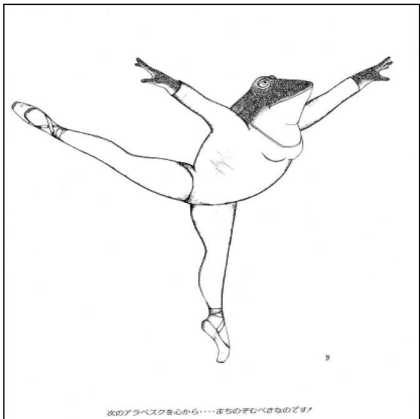
絵図11 かえるにダンスの猛特訓を受ける『ハンスのダンス』



踊りのやり方ではクラシックバレエの解説書である『カエルのバレエ入門』（絵図13）がある。



絵図12 踊りになった歴史『うみさちやまさち』



絵図13 踊りのやり方『カエルのバレエ入門』

その他では言葉遊びで、『かえるはみえる』の「かえるはまえる」など、脈絡なく踊る場面が出てくるものなどがある。

また、小項目60例の中で多い順に見たものが表2である。

「うれしくて踊ってしまう 23例」場面の描写が最も多く、踊るというより心を表現するという言葉のほうが当てはまる。ついで、「音楽が鳴ると踊ってしまう 21例」は、音楽の役割が大きいことを示す。3番目が「宴会の踊り」で20例である。これら3つが上位3位で、ついで、「特性を表す踊り 19例」「衣装と仮面 12例」「愛の証・愛を告白 11例」と続く。

表2 絵本に見る踊りの表現小項目多い順

順位	小項目	例数
1	うれしくて踊ってしまう	23
2	音楽が鳴ると踊ってしまう	21
3	宴会の踊り	20
4	特性を表す踊り	19
5	衣装と仮面	12
6	愛の証・愛を告白	11
7	踊りで人の心を動かす	10
	リズムに合わせて踊る	
	仲間をあらわす象徴	
	ダンスパーティー	
	踊りの小道具	

## 2. 絵本における国別・時代別にみる踊りの捉え方

### (1) 外国と日本の絵本における踊りのイメージ

文化の違いによって踊りに対する考えは違い、絵本作家においてもまたその影響を受ける[12] ので、外国と日本の差を見ておく。ただし、多くの翻訳本が他国においても出版されているので、互いの影響はあると思うが、基本的に文化の壁はあると考える。図2は外国と日本

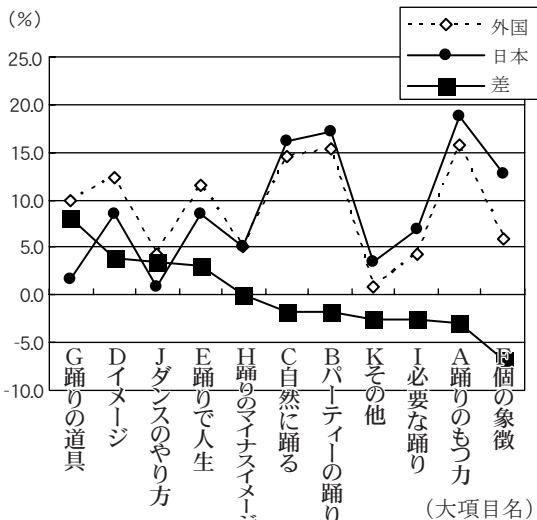


図2 外国と日本の絵本に見る踊りの表現

表3 日本と外国の差

大項目	%絶対値
G踊りの道具	8.1
F個の象徴	6.8
Dイメージ	3.8
Jダンスのやり方	3.4
A踊りのもつ力	3.0
E踊りで人生	3.0
Kその他	2.6
I必要な踊り	2.6
C自然に踊る	1.7
Bパーティーの踊り	1.7
H踊りのマイナスイメージ	0.0

の例数のそれぞれの%の比較を示す。四角と太い実践で示された折れ線が、外国と日本の差である。また、表3は開きがどれくらいかを両方の%差の絶対値で示している。差がある箇所は「踊りの道具」であり、ついで「個の象徴」が多い。「踊りのマイナスイメージ」については

両者に差がなく、「パーティーの踊り」「自然に踊る」も差が少ない。

小項目の多い順に見ると、5位まで示したものが表4である。「うれしくて踊ってしまう」「音楽が鳴ると踊ってしまう」「宴会の踊り」の3個の大項目は、上位に入っており、国を超えての踊りのイメージであることが分かる。二重線以下にかかれたものは例数0のものであるが、外国では「極楽のイメージ」「酒宴での踊り」「盆踊り」などがなく、日本文化に根ざしたものであり、日本にないのは、「のろいの踊り」「権威を見せる踊り」「勝利して踊る」などがない。

## (2) 1900年代と2000年代の絵本における踊りのイメージ

時代の差においても、5位までは「うれしくて踊ってしまう」「音楽が鳴ると踊ってしまう」「宴会の踊り」がともに上位で、国や時代を超えての普遍的な踊りのようすなのであろう。ま

表4 絵本に見る踊り表現の小項目の多い順（外国と日本の別）

外国の絵本の場合			日本の絵本の場合		
順位	小項目の内容	例数	順位	小項目の内容	例数
1	うれしくて踊ってしまう	16	1	特性を表す踊り	11
2	音楽が鳴ると踊ってしまう	14	2	宴会の踊り	8
3	宴会の踊り	12	3	うれしくて踊ってしまう	7
4	愛の証・愛を告白	10	音楽が鳴ると踊ってしまう		4
	仲間をあらわす象徴		5	酒宴での踊り	
	衣装と仮面				
52	神がかりになる・誘惑の踊り・酒宴での踊り・極楽のイメージ・踊り嫌い・下手な踊り・盆踊り・舞踊になって歴史が残る	0	47	勝利して踊る・仲間をあらわす象徴・女の子のイメージ・踊りが出来る人・踊りの小道具・踊りをする建物・踊らされる・のろいの踊り・権威を見せる・練習する様子・踊りの紹介	0

表5 時代別の差

大項目	%絶対値
E踊りで人生	8.0
A踊りのもつ力	6.6
Dイメージ	5.8
I必要な踊り	5.6
C自然に踊る	3.4
Bパーティーの踊り	2.8
Kその他	1.9
F個の象徴	1.6
G踊りの道具	1.0
H踊りのマイナスイメージ	1.0
Jダンスのやり方	0.2

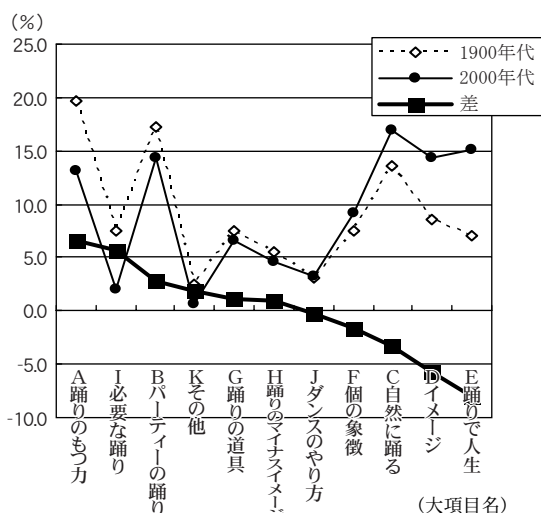


図3 1900年代と2000年代の絵本に見る踊りの表現

た、二重線以下は例数が0のものであるが、1900年代では「なりきる」「足が動くと踊りだす」「女の子のイメージ」で、現代の踊りのイメージと共通する。2000年代については「舞踊になって歴史が残る」「権威を見せる」「踊りで知らせる」などがない。

#### Ⅳ 絵本の中の踊りのイメージ

##### 1. 普遍的な踊りのもつ力

###### (1) 踊りのもつ力とは何か

踊りには昔からなにやら催眠的なイメージがある。絵本では「神がかりになる」「踊りで誘惑する」などの表現がある。同じリズムを続け

表6 絵本に見る踊り表現の小項目の多い順（1900年代と2000年代別）

1900年代の絵本の場合			2000年代の絵本の場合		
順位	小項目	例数	順位	小項目	例数
1	うれしくて踊ってしまう	13	1	宴会の踊り	10
2	音楽が鳴ると踊ってしまう	12		特性を表す踊り	
3	宴会の踊り	10	3	うれしくて踊ってしまう	9
4	ダンスパーティー	8		音楽が鳴ると踊ってしまう	
	特性を表す踊り			舞台で成功する	
53	上手な踊り手・踊りの小道具・踊らされる・民族の踊り・誘惑の踊り・なりきる・足が動くと踊りだす・女の子のイメージ・舞台で成功する・踊りが出来る人・ごまかしで踊る	0	47	遊びの踊り・踊りで知らせる・酒宴での踊り・極楽のイメージ・楽しい居所・生活の踊り・踊りをする建物・踊り嫌い・のろいの踊り・下手な踊り・盆踊り・権威を見せる・踊り方・舞踊になって歴史が残る	0

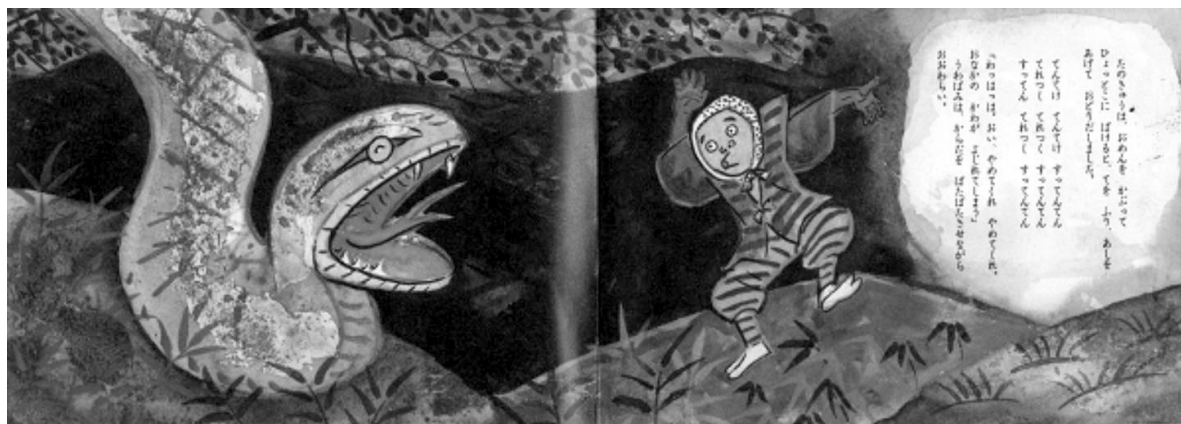


ているうちに集団全体が浸る不可思議な現象は生理学的にも証明されている。脳生理学者の時は「歌は、音波という機械的な刺激として耳に受け止められ、感覚信号として脳へ送り込まれるのであるが、踊りも皮膚や筋肉や関節などに加わるリズムカルな機械的な刺激の効果をもって、それらの部位にあたる感覚器で受け止められて脳へ送りこまれる信号は、同じように、新皮質系の活動を弱める [13]」と、その著『人間であること』で述べている。新皮質系の活動とは理性をつかさどる部位であり、その部分の活動が弱まると、考える力が麻痺する場合もあるということである。

踊りのもつ力はそれだけではない。自分の快感を満足させると同時に、社会とのつながりを瞬間的にもつことができる。したがって「教養として習う」必要があったし、「憧れの踊り」や「思い出の踊り」があるのである。踊りは瞬間的な共振効果だけではなく、「人の心を変える」手法ともなりうる。「踊りを通して学ぶ」のは、そういった体験により解るということであり、まさに体験する学びである。子どもは共振も一体化も大変上手である [14]。言い換えれば、絵本の上ではあるが、すぐにその主人公に一体化し、その主人公とともに生きることができることは I でも述べた通りである。

踊りが上手で命が助かった『こぶとりじい』の話はⅢの 1 カテゴリー分析の結果のところに記載しているが、面白い踊りをして命が助かった話もある。『たのきゅう』は芝居の役者たのきゅうが、母親が病気と聞き、うわばみが出ると知りながら近道をする。うわばみに出会ってしまい、役者になって色々とうわばみを面白がらせる。とくに、ひょっとこになって踊るとうわばみは腹を振じらせて大笑いをし、たのきゅうは飲み込まれずに助かる、という話である（絵図14）。ユーモラスな知恵を使って危機を乗り越えることも、子どもたちに伝えるには良い教材と考える。

ユーモラスに人の心を変えていくというのは、子どもたちに知恵とともに、おおらかさやゆったりさという心の豊かさをも知らしめていく。もちろんそれが科学性に立脚したものでなく、ファンタジーであったとしても、子どもたちは十分理解できる。絵本の世界はファンタジーに満ちている。野菜も踊れば家も踊る。それでも子どもはファンタジーであれ、現実見られるものであれ、踊りの本質は伝わる。古市他は「動物飼育における子どもの生態的視点について」で、「幼児は科学的な視点を得ても、空想の世界をつぶされず、その動物をお話の主人公として楽しめるかどうか」について検証した結



絵図14 ひょっとこ踊りで笑わす『たのきゅう』

果、3歳児ではファンタジーを楽しむことが優先され、4歳児では両方を楽しみ、5歳児では科学絵本を好んだ。しかし、科学的な認識が進んでも、5歳児ではファンタジーを少し楽しみにくくしている傾向はあるものの、どの年齢でもファンタジーを楽しむことが可能であったという [15]。つまり、こどもは現実とファンタジーの世界の両方を違和感なく行き来できる年代なのである。

また、踊りは誘惑の手段にもなっている。『シャカ』はお釈迦様の一生を描いた絵本であるが、人間はどこから来てどこへ行くのか、人間は何のために生まれたか、など考える悩み多き王子になった。そこで、父親のスッドーナ王は宮殿に芸人を呼び、毎晩のようにパーティーを行った。そして、ウルヴェーラで、シイダールタは石の上に座り瞑想に入る。悪魔の一団は火の雨・岩の雨・剣の雨を降らせるが王子に傷一つ負わせられない。そこで、次に悪魔が放ったのは女たちで、微笑みかけたり、語りかけたり、体に触り、歌い踊り、ご馳走とお酒を勧めた。王子はそれにも心を乱さず瞑想する。このように、踊りは人の心を乱すためにも使うことができるのである。

## (2) 自然に踊りに入るとき

踊りの好きなものにとって、音楽を聴くともう心は躍っている。きっかけさえあれば、身体がついていくだけである。音楽と踊りの関係については、ダルクローズが「音楽」と「体育」をリズムという概念で結びつけて以来、いやたぶんそれ以前から多くの研究者の関心のまとであった。その実践については多少の変革はあったものの、現在、リトミックという言葉で受け継がれている。保育の現場でその内容は音楽と動きは一つのものとして教育されてきた。保育の現状にあうように、平成元年領域「音楽リズム」

が「絵画制作」とその周辺の表現に関するものと一緒になって「表現」という名前に変えられた所以である。

『おどりのすきなとら』は韓国に伝わる民話である。踊りの好きなとらが木に登ったきこりをとら梯子を使って今まさに捕まえようとするとき、きこりが笛をふく。とら梯子の一番下にいた踊りの好きなとらは我慢が出来ずに踊りだす。とら梯子はくずれて他のとらたちがひっくり返ってしまってもまだ踊る。その間にきこりは逃げていくというものである。この話は異話があって、フランス版では、熱いすかんぼのスープをおばあさんにかけてもらうのである。それと比較すると、韓国のおはなしは、踊らせるといういかにもものんびりとしたユーモアがあると松居はいう [16]。



絵図15 音楽が鳴るとがまんできない『おどりのすきなとら』

音楽は動きを引き出してくれるが、幼児期での価値ある命題は、技能を云々することなく、子どもが自然に身体を動かしていける刺激となることである。音楽の存在が動きを引き出すのか、もしくは動きが音楽を要求するののかの議論

はここでは意味が無いが、リズムという基本軸に乗っていることはいうまでもない。しかし、リズムという言葉も必ずしも非常に定型的な繰り返しだけではなく、人の心の動きがスムーズにいくときにも使われる。反対にスムーズな流れのものではなく、突如として踊りだしてしまうのが、「うれしくて踊ってしまう」ことである。心躍ることに会おうと、そのうねりはからだの中には納まりきれず、でも、手足の長さには限りがあるので、それ以上になると左右上下に動いて、もっとうれしいと飛び上がってしまうのである。『リリイおばさんなげキッス!』(絵図16)はその飛び上がっている場面である。



絵図16 うれしくて踊り上がる『リリイおばさんなげキッス!』

反対にゆっくりしたテンポで踊るものがある。それは『ロバのおうじ』で、子どもを授かるために魔法使いに金貨33枚を渡す約束をするが、だまして鉛を金貨に見せかけたことがばれて、魔法使いはのろいのダンスに踊り狂う。これらの踊りが理解できるのは、お話の流れがわかり、絵本の上で自分も同じ流れを心の中で仮想表現しているからである。つまり、話の流れがそのまま踊りに受け継がれるので、容易に子どもにもそのリズムが作りだせるのである。

### (3) 踊りとパーティーの関係

踊りはパーティーと関係が深い。宴会での踊りはどんなときに踊られるかというと、ダンスパーティーはもちろんのこと、作物の収穫の後に踊られるもの、結婚式での踊り、酒宴での踊り、戦いに勝利して踊る、民族の習慣として踊る、雪・春・雨呼びの踊り、盆踊り、権威を見せるために踊らせる、剣を隠し持って近くまで寄って殺す策略の踊りが今回の調査で見られたが、人々の集まりには欠かせない盛り上がりの瞬間なのである。例えば「権威を見せる踊り」としてあげた『かいじゅうたちのいるところ』はマックスが母親のいうことを聞かずに、自分の世界に冒険する。そこで、怪獣たちを操り、怪獣踊りをやりたいだけやると、うんざりした。そこで、夕飯ぬきで怪獣たちを眠らせる。最後は優しい母の元に返ってくる。怪獣の踊りを命じて躍らせることについて、自分は王となるが、「かいじゅうたちは、一面で、子どもから見た大人の姿を反映しているのだろう [17]」と灰島はいう。ダンスの場面はこの絵本のクライマックスである。クライマックスでのこころの高まりの踊りは子どもに大きな記憶として留まるに違いない。そのイメージを子どもが無意識に持ち続けて、必要なときにそれが取り出せて、実際の場面で臆せず、恥ずかしがらずに表現できるようにしたいものである。

### 2. 揺れるイメージを「踊る」と表現すること

『からだとことばのイメージ』の著者石塚は「ゆすり」のイメージを支えるものは胴・胸・肩・腕への波の伝わりである。音楽のもつテンポ・リズムによっても、同じような動きがみな違ったイメージを作り、実に多様な表現になる [18]」という。今回の調査においてもそれぞれの個性あるものが揺れて動き、踊っているという言葉の表現が自然であるのは、絵の描き方が



うねりをもって描かれ、まさしく、人の身体でいうと、胴・胸・肩・腕への波の伝わりのごとくうねって、踊る表現を作り出しているからである。さらに、踊るという絵本の言葉が後押しして、子どもたちの心はゆらゆらと躍り、踊る。

心の震えから始まった「ゆれる」動きは振りの原点とも言える [19]。佐治は『「ゆらぎ」の不思議な物語』で「透明で目に見えない水も、そこにそよ風が吹いてきて水面に漣がたつたとすると、水面のゆらゆらした縞模様が始めて目に移り、揺らぎによって見えないものが見えたということ [20]」であるという。このように、絵本の中でも、左右にくねって描かれたもの、左右にくねるものが踊ると表現されていることが、子どもたちの心には踊るという表現が抵抗無く受け入れられる理由であると考えられる。『あじのひらき』はひらひらと風に揺らいで乾かされるところや、『茂吉の猫』は火の玉がゆらゆらと揺れるさまをぺかぺかという面白いオノマトペで表現しているなどは子どもも興味を示す箇所である。

『ふでこぞう』は江戸時代の草双紙のなかに『化物念代記』という本があり、その中の「卯という字に目がつけば玉子のばけもの」というのがあり、それに想を得ている。筆がいろいろいたずらをする。たまごに眼や手足をつけ、ふたりで冒険する。おばけの不景気な顔を笑い顔に書き換える。ついでに足も書いてしまったら幽霊はみんなで踊りだす。身体表現は、脚をつけることでわかりやすく迫力のあるものになるが、動きの豊かさの一端に触れているものである。『ミミズくんのにつき』で、「きのうのよるは、がっこうのダンスパーティーだった。さあ、みんなわになって、あたまをなかへ あたまをそとへ おつぎはとくいの くねくねダンス。これっきりののが、ちょっとさびしい」や、Ⅲに1のカテゴリの分析のところ述べて『はら

のなかのはらっぱで』のはらごなし音頭など、ネーミングも踊っており、文章を作るほうの心も躍動するようである。

### 3. 踊りを通しての一生はあるか

踊りが好きで成功する話や、その関連の話では『ディディ』『アンジェリーナはバレリーナ』などがあるが、踊り好きを良しとする成功談である。『ペニーのダンス』は特に、一生をかけてどのようなかを書き込んでいる。王様の海軍にピーター・ペニーという水兵がいた。踊りがうまく、掃除もしないで踊ってばかりで、見張り台や料理場でもひと踊り。艦長に追い出される際に、世界一周を踊りながら旅して5年間の間に戻ってきたら娘と結婚しても良いといわれる。ペニーは踊りながら世界中を回り、自分の思いを果たすことができた。インドでの踊りでは、首を端から端まで動かし、器用に踊り、ハワイでは娘たちとフラダンスを踊っていたと思った。そして、帰還して約束通り娘と結婚できるという話である。この話の中には3つの意味がこめられている。①とりわけ優れたダンスという得意分野がある。②その分野でおもう存分活躍すること、③その結果幸せな人生を獲得できるということ、である。しかし、そこには、好きなことばかりしていると、社会的に必要なことができない状況があることを示している。それが、ストーリーのベクトルを決めているので、踊り好きが子どもの印象にどのように残るかが少々気になるところであるが、物語という性格上、必要なことであろうし、また、それが考えるばねにもなる。踊りで一生を送れることについて、今ではかなり一般的であるし、一種の未来へ向けての種落としにもなろう。

### 4. 小道具の果たす役割

踊りは仮面をつけたりして自分以外のものに

なれる場合がある。また、小道具をもってより大きな表現をする場合もある。それは、大きさに限りある身体の変革であるが、子どもの表現は「なりきる」ことを楽しめる存在であることも確かである。「なりきる」ことはどちらかというと、内から外へ向かう変身であるが、反対に外から内へ向かう変身が仮面であり、小道具である。どちらの場合も子どもは容易に変身でき、また、楽しめる存在である。

鷺田は「自分の身体は誰もがじぶんのもっとも近くにあるものだとおもっているが、よく考えてみると、ぼくがじぶんの身体についてもっている情報は、ふつつ想像しているよりもはるかに貧弱なものだ。身体的全表面のうちでじぶんで見える部分というのはごく限られており、じぶんでじぶんの身体の内部はもちろん、背中や後頭部でさえじかに見たことがない。ましてや自分の顔は、終生見ることができない。ところがその顔に、自分ではコントロール不可能な自分の感情のゆれが露出してしまう [21]」という面白い見方をしている。

そういう自分では見えない身体ではあるが、これを出すばかりでなく、反対にデフォルメを加えることで生まれる別の効果もある。「身体をかくすのではなく、逆にふつつ露出してある顔面のほうを覆うことによって、別の意味効果を発生するやり方もある。すぐ思いつくのはマスク、つまり覆面や仮面だ。マスクで顔を覆うことによって、僕らはじぶんがだれかを隠すことができる。マスクはじぶんを匿名化する装置、つまりじぶんの顔から〈わたし〉いうことを消してしまう装置だ [22]」とも言っているように、わたしを隠すことにより、変身できる。変身により、外から内を変えることも可能である。そして、その心も別人に変えることが容易になる。子どもたちは容易に「なりきる」こともできるが、変身がより確実になることを喜ぶ。

マスクやマントをつけるとウルトラマンに変身して遊ぶあの生き生きした顔が何よりもそのことを物語っている。また、子どもたちの成長につれて、自分の形状を意識していくと、表現に対して億劫になってしまうが、仮面や小道具によって、その壁を破ることができる。

## 5. 踊りのマイナスイメージが示す意味

踊ることは全てが良しというわけではなく、マイナスのイメージを伝えるものもある。「それは踊らされる」「踊って叱られる」「ごまかしで踊る」「踊り嫌い」「のろいの踊り」「下手な踊り」という場面で描かれる。自分の意思でなく、死ぬまで踊りをやめることができないのは死活問題である。それは踊りそのものが殺す目的になっているのではなく、重いストーリーがあって、悪しき行いをしたことで、またはそれに準ずる行為があったものに対して行われる罰の一種なのである。身体が果てるまでエネルギーを発散させられることで、徐々に体力を奪われる恐ろしい手法である。「のろいの踊り」は遠隔操作の仕返し行為であり、踊ることの効果は、より感情を増幅して伝えることができる。しかし、これは踊り自体のマイナスではなく、これは罰の一種であるし、現実不可能な仕返しであろうし、裏切らなかつたら起こらないことだということは年長の子どものには周知のことであろう。

さらに、「下手な踊り」が幸せを呼ばないことは『こぶとりじい』でもあきらかなように、ギクシャクした心のバランスを欠いたものとして表現されている。どのようにバランスを欠くかということ、人間の要望という一部が限りなく大きいもののたどる運命の分かれ道が、踊るという欲得に関係のないことによって行われるという、いましめの道具なのである。踊りのもつ面白味はここにある。子どもには分かり易く、

やんわりとしかも印象深く伝える力を持っている。

## V 絵本が伝える踊りのイメージ

実際、絵本を読んでもらった後に、その印象を、劇や踊りなどで日常遊ぶ子どもの姿はよく見られることである。領域『表現』や『言語』の教科書ではその例が取り上げられている。

子どもたちがイメージを喚起させるものの存在として絵本の存在は大きい。また、イメージを動かしていくためにはストーリーがないと、経験の少ない子どもには荷が重いことになる。その点、ストーリー性の高い絵本が果たすイメージづけは断片でなく、記憶を確かにし身体の動きもわかっていて、身体表現のよき材料となる。高濱は『事例で学ぶ保育内容 言葉』のなかの絵本から広がる世界の項で次のように述べている。「クラスの友達と一緒に体験した物語の登場人物をペープサートで作って、友達と演じてみたり、ごっこ遊びや劇遊びに発展していくこともよくある。遊びこんで生活発表会など舞台の上で披露することもある。子どもが絵本の世界を外に表現するためには、まず、子ども自身のなかに絵本の世界を取り込んでいく必要がある。主人公や登場人物に自分を重ね合わせたり、実在の友達のように主人公に思いをはせる体験が不可欠なのである。そのように子どもの心と身体を一度くぐったものが、外に向けて表現されるのである [23]」。

アメリカのストーリーテリングの名手といわれるルス・ソーヤーの言葉が引用されている松居直の『絵本とは何か』に「本を読んで頭で理解した事を旅行その他体験によって身をもって感じとることにより、その理解は本物となる。また、色々な芸術、特に音楽に親しむ事により、芸術に対する感受性を養う事が必要である [24]」という。

感受性は想像性を引き寄せる。「肉眼ではどうしてもみることのできないものでも、心の目に見える姿として映るのは、私たちに想像力があるから [25]」である。絵本は実際の世界から飛び出して想像の世界に遊ぶ原点になる。子どもの心は絵本の躍動とともに別の世界に遊ぶことができる。頭脳の中で、自分で映像を動かす作業が減少した現在、想像は子どもにとって、想像以上に大事なことなのかもしれない。

以上のことをまとめると、絵本が伝える踊りのイメージは、日常の多くの場面や人生の節々の宴、人々の交流、人の一生に関わるときに見られることを伝えている。踊りは踊り表現に関する楽しみだけでなく、人の心にも深く関わり、色々な変革や効果をもたらすこともあるなど、仮説として考えていた以上の姿を取り出すことができた。心に深く刻み込まれたストーリーとともに、子どもの心に沈殿した踊りのイメージは、実際に子どもが踊りに直面したときに、記憶がよみがえり、踊りに対して、①イメージの喚起、②心的抑場の増幅、③感性の発露、④想像の世界に遊ぶ、⑤より楽しむ心、などに働くのではないかという予想をすることもできる。

踊りが伝えるイメージを探るうちに、踊りと深く関わっている音楽についても多くの示唆を得ることができた。今回は踊りを支える音楽について検討したい。

## 引用文献

- [1] 松岡享子『えほんのせかいこどものせかい』日本エディタースクール出版部、1987年、71頁。
- [2] クレヨンハウス『絵本town』クレヨンハウス、2007年。
- [3] 河合隼雄・松居直・柳田邦男著『絵本の力』岩波書店、2001年、4頁。
- [4] 堀内誠一『ぼくの絵本美術館』マガジンハウス、1998年、46頁。
- [5] 藤本朝巳『絵本の仕組みを考える』日本エディタースクール出版部、2007年、22頁。



- [6] 前掲書 [1] 38頁.
- [7] 日本子どもの本研究会編『子どもと絵本の学校』ほるぷ出版、1988年、504-507頁.
- [8] 吉田新一『絵本の魅力』日本エディタースクール出版部、1984年、54頁.
- [9] 前掲書 [8] 64頁.
- [10] 古市久子・遠藤晶・松山由美子・吉田清治「アンケート調査のデータ読み取り作業における信頼度と問題点についての研究」大阪教育大学紀要、第IV部門教育科学、第44巻、第1号、1995年、27-40頁.
- [11] 古市久子・遠藤晶・松山由美子「ビデオ観察研究におけるデータ抽出時の問題点について」大阪教育大学紀要、第IV部門教育科学、第45巻、第2号、1997年、263-277頁.
- [12] 古市久子・西崎有多子「絵本の翻訳に何が影響しているか〜日英の絵本を通して〜」東邦学誌、第38巻、第1号、2009年、27-51頁.
- [13] 時実利彦『人間であること』岩波新書、1970年、143頁.
- [14] 森司郎「幼児の「からだ」に共振に関して一対人関係的自己の観点から」保育学研究、37巻、2号、1999年、24-30頁.
- [15] 古市久子・廣本ゆかり「動物飼育における子どもの生態学的視点について」エデュケア、第24号、2003年、23-31頁.
- [16] 松居友『わたしの絵本体験』大和書房、1986年、132-133頁.
- [17] 灰島かり・谷本誠剛『絵本をひらく』人文書院、2006年、19頁.
- [18] 石塚雄康『からだとことばのイメージ』青雲書房、1982年、115頁.
- [19] 古市久子『身体表現』北大路書房、1998年、119頁.
- [20] 佐治晴夫『「ゆらぎ」の不思議な物語』PHP研究所、1994年、76頁.
- [21] 鷺田清一『ちぐはぐな身体』筑摩書房、1995年、10-11頁.
- [22] 前掲書 [21] 45頁.
- [23] 無藤隆監修 浜口順子編集代表『事例で学ぶ保育内容 表現』萌文書林、2007年、146頁.
- [24] 松居直『絵本とは何か』日本エディタースクール出版部、1973年、188頁.
- [25] 前掲書 [1] 38-39頁.

## 絵図に引用した絵本

- (絵図1) スズキコージ『つえつきばあさん』ビリケン出版、2000年、18-19頁.
- (絵図2) 宮川ひろ文・蓑田源二郎絵『こぶとりじい』ほるぷ出版、1985年、14・27頁.
- (絵図3) 内田麟太郎作・降矢な絵『ともだちくるかな』偕成社、1999年、28-29頁.
- (絵図4) ユリ・シュルヴィッツ作・さくまゆみこ訳『ねむいねむいおはなし』あすなろ書房、2006年、12頁.
- (絵図5) ブレーズ・サンドラール文・マーシャ・ブラウン絵・おのえたかこ訳『影がゆれる影ぼっこ』ほるぷ社、1983年、8-11頁.
- (絵図6) ジャネット・クイン文・アニタ・ローベル絵・かけがわやすこ訳『ピーター・ペニーのダンス』ほるぷ出版、1980年、表紙.
- (絵図7) アーサー・ビナード文・長野仁監修『はらのなかのはらっぱで』フレーベル館、2006年、18-19頁.
- (絵図8) ケビン・ヘンクス作・いしいむつみ訳『おしゃまなりりーとおしゃれなバッグ』BL出版、1999年、20頁.
- (絵図9) 内田麟太郎文・長谷川義央絵『ぶす』ポプラ社、2007年、34-35頁.
- (絵図10) 沢田としき『アフリカの音』講談社、1996年、24-25頁.
- (絵図11) なかがわひろたか作・荒井良二絵『ハンスのダンス』文溪堂、2008年、22-23頁.
- (絵図12) 舟橋克彦文・赤羽末吉絵『うみさちやまさち』あかね書房、1995年、31頁.
- (絵図13) ドナルド・エリオット文・クリントン・アロウッド絵・蘆原英了・薄井憲二訳『カエルのバレエ入門』岩波書店、1983年、8頁.
- (絵図14) 小沢正文・太田大八画『たのきゅう』教育画劇、1996年、12-13頁.
- (絵図15) 松谷みよ子作・井上洋介絵『おどりのすきなとら』太平出版社、1999年、29頁.
- (絵図16) ナンシー・ホワイト・カールストローム作・堀川理万子絵・すずきひさこ訳『リリイおばさんなげキッス!』偕成社、1998年、31頁.

受理日 平成21年9月24日